科目名	26. 生活行動がしづらいからだV 重症心身障害児・者の理解				
履修年次	2年次	科目区分	専門基礎分野	単位数 (時間)	1単位 （30時間）
ディプロマポリシー(DP)	□ 人を大切にするこころ ☑ 現象を適切に把握し地域で生活する人を支える看護実践力 □ チームの中で連携・協働するための力 □ 専門職業人として自己研鑽する力				
科目目標	重度・重複障害によるからだの反応と治療過程を理解することができる。また、それらが生活行動に及ぼす影響を理解することができる				
到達目標	人のからだに関心をもちながら、重度・重複障害によるからだの反応とそれを整えるための方法について説明でき、生活行動への影響について表現することができる				
評価方法	筆記試験（100点）				
使用 テキスト	重症心身障害/医療的ケア児者　診療・看護実践マニュアル　診断と治療社 新版　重症心身障害　療育マニュアル　医歯薬出版株式会社				
参考文献					
教育方法と学生への期待 (求めること)	よりよい看護を実践するためには疾患の病態生理や治療について知識を有していることが必須です。ここでは、本校の特色である重症心身障害児・者の理解に繋げられるよう、重症心身障害児・者の歴史と変遷から重症心身障害児・者にみられる障害と合併症と治療を理解し、生活行動に及ぼす影響を考えて欲しい。 受講にあたっては、教科書での予習・各回の講義の復習を十分行うこと。『生活行動から見るからだ』『病気の原因と回復過程』の復習をして講義に臨み、理解を深めて欲しい。				

回	学習項目	学習内容	授業 方法
1	障害の概念	重症心身障害とは 障害者基本法・WHOにより障害の理解 重症心身障害を取り巻く社会(概念・定義)の変遷 重症心身障害医療・福祉の変遷	講義
2	重症心身障害の理解	大島の分類・横地分類 超重症児、準超重症児、動く重症心身障害児、医療的ケア児	講義
3	療育の実際①	健康管理 リハビリテーション 教育 発達支援	講義

4	療育の実際②	重症心身障害児・者支援における多職種連携 （医師の立場から）	講義
5	障害をひきおこす誘因①	低酸素性虚血性脳症、てんかん	講義
6	障害をひきおこす誘因②	染色体異常 遺伝性疾患	講義
7	障害をひきおこす誘因③	内分泌疾患 体温：体温調節障害 睡眠：睡眠障害	講義
8	重症心身障害の特徴と周辺疾患	骨格：骨折、変形拘縮が及ぼす影響と対応	講義
9	障害に伴う合併症①	呼吸：気道の通過障害、低酸素症、高炭酸ガス血症の病態生理・診断と検査・治療	講義
10	重症心身障害児・者のリハビリテーション	目的 理学療法・作業療法・言語療法	講義
11	障害をひきおこす誘因の治療	薬物療法	講義
12	障害に伴う合併症②	泌尿器：神経因性膀胱、尿路感染病態生理・診断と検査・治療	講義
13	障害に伴う合併症③	消化管：便性の異常、嘔吐、胃食道逆流症、イレウスの病態生理・診断と検査・治療 栄養：栄養状態の評価、栄養所要量の算定の考え方、微量元素欠乏などの栄養障害、栄養障害への対応	講義
14	障害に伴う合併症④	歯・口腔：主な口腔病変、誤嚥性肺炎の予防と口腔ケア	講義
15	障害に伴う合併症⑤	感覚：感覚入力とその障害 行動：行動障害の捉え方と対応 行動障害を引き起こす誘因・診断	講義